

面倒な行政手続きを改善

〈総務文教常任委員会〉

10月11日
～13日

総務文教常任委員会では、10月11日から13日に北海道北見市及び北海道東川町を視察研修しました。

北海道北見市 来庁者の目線に立つて 業務改善

改善を図る前に北見市役所で手続きをする際には、次のような課題や意見がありました。

- ① たくさん書かされる
- ② 窓口を回される
- ③ 時間もかかる
- ④ 何度も足を運ぶ

これらの住民の思いを受けとめ、改善に取り組まれました。まず利用者目線について考えるため、新人職員が市役所窓口を利用してみる実験を実施されました。こうした職員の体験が改善の考え方を身に付け

面窓口の裏側はデジタル化し進化させる必要性があるとのこと。手続きごとに本人確認の手順や基準が異なっていたため、住民票交付の際の本人確認を基本として統一化されていました。
※法令等で押印が義務付けられている手続きを除く。



北見市での研修

北海道東川町 程良い距離を持ち、 風景を守りながら育てる

過疎化が続く日本の半数近くの市町村が「過疎市町村」とされており、山間部を多く抱える地方は人口減少が目立っています。
北海道のほぼ中央に位置する東川町は、厳しい状況が続く中、この20年間で約2割も人口が増えています。

なぜ東川町の人口は増え続けているのでしょうか。まず、子育て・教育・健康の3K+経済・環境の2Kを基本に「脱公務員思考」で進めた自立政策でした。自分の頭で考え判断し、良いか悪いか決めて実行されました。
国・県等からの助成金があるならやるが、5万・10万でも単費ではやらないと徹底されていま

した。外国からの移住者に対して、住民が温かく受け入れ接する文化を醸成されていました。
また、「適疎推進課」を作り程よい距離感を持ちながら、他の自治体には無い発想をされていました。

調査を終えて
全ての人がスマホを持って、スマホで何かをやらなくてはいけないということではないと考えます。スマホを使えない人は窓口にいっていただければよいと思います。その時、その窓口がデジタルの力で、住民と一緒に手続きを済ませる未来になればと思います。
(大坪 久美子)



東川町での研修

意見交換会

定例会

委員会審査

一般質問

委員会報告

採決結果

アンケート調査委員会

どんな人も見捨てない

誰も断らない

〈厚生常任委員会〉

10月13日～14日

厚生常任委員会では、10月13・14日に神奈川県座間市の「社会的孤立防止の対策」及び東京都町田市の「認知症対策」を視察研修しました。

ゆるくつながり
市民と伴走する 座間市

座間市では、市民の困りごとを解決していくために、生活支援課を中心とした行政、公的団体、困窮者支援に携わっている組織や団体などと、どんな人も見捨てない、誰も断らないネットワーク「チーム座間」を立ち上げて、社会的孤立の防止にあたっています。支援を押し付けることなく必要な時はすべに対応できるようゆるくつながり、目標達成に向けてともに伴走する姿勢で困窮者の自立を応援しているとのことでした。



座間市での研修

認知症の人に
やさしい 町田市

町田市では、本を通じて認知症のことや本人の思いを届ける「Dブックス」など認知症の人にやさしいまちづくりに積極的に取り組まれています。民間書店の一角に、専門

書など認知症に関連する書籍を集めたDブックスコーナー（写真）を設け、当事者や家族への情報発信と地域の正しい理解の促進につなげる取り組みが行われていました。



町田市のDブックスコーナー

調査を終えて

全てを自分たちだけでは解決できない。困ったときに困ったと言える関係をつくるのが解決への一歩と座間市の担当者は言われました。

「どんな人も見捨てず、ゆるくつながりながら市民と伴走する」。八女市でもそうあってほしいと願っています。そのため政策を提言していかねばならないと考えます。

(田中 栄一)

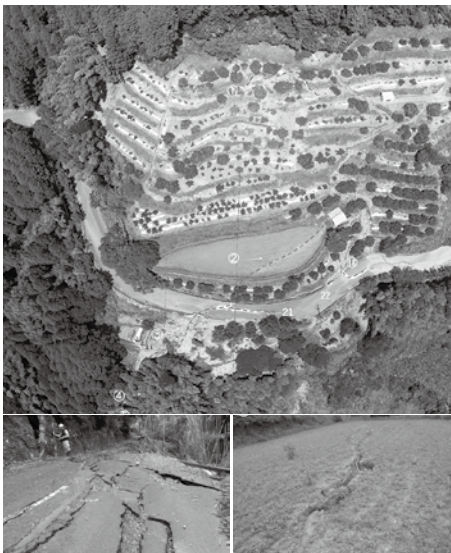
市内大雨被害状況を確認

立花地区・上陽地区

〈建設経済常任委員会〉

10月5日

八女市では令和元年より4年連続して災害を受けており復旧事業が着実に進められています。令和4年度7月・8月も大雨による被害を受け、議会としても現地確認を実施しました。



立花町(白木地区)の地すべり



【令和4年
大雨災害について】

- 降雨量
- ・7月18日～19日
最大雨量 283mm
最大時間雨量 49mm
- ・8月23日～25日
最大雨量 174mm
最大時間雨量 142mm

○被害状況

- ・公共災害 12件
- ・1億7000万円
- ・農地施設災害 31件
- ・1億1400万円
- ・応急災害工事 57件
- ・5億4700万円
- ・単独災害 44件
- ・1億4020万円

調査を終えて

福岡県と八女市で令和3年災害の復旧工事を順調に進められています。八女市においては、補助災害111カ所の内107カ所が施工・工事中であり、本年度中の完成に向けて進められています。

令和4年災害は現在測量・設計中で災害査定を受験後、早急な復旧に向けた予算確保と復旧に向けた取り組みを目指すとの報告を受けました。

(青木 勉)

広報全般を担う

新たな委員会を目指して

〈議会だより編集委員会〉

10月3日～4日

議会だより編集委員会では、10月3日～4日に大分県佐伯市議会と福岡県筑紫野市議会を視察研修しました。

佐伯市議会広報委員会 読みやすさを追求！

委員は、3常任委員会から各3名選出の9名で構成され、任期は2年と規定されています。

ト方式で割出して選任し、6名で構成され、任期は2年とされています。

委員は、3常任委員会から各3名選出の9名で構成され、任期は2年と規定されています。

委員の数は6名と少なく感じましたが、少数精鋭の観点で取り組めば問題はないようで、今後の参考になる考えでした。

広報誌は、発行部数32700部、フルカラーで1冊当たり約190円と相当割高に感じます。空間を使って読みやすさを意識した編集姿勢は、参考になりました。

広報誌は、発行部数43400部、フルカラーで1冊当たり約59円と低コストに抑えられています。

広報誌以外では、ホームページの更新に関わる程度でSNSを活用した情報発信は今後の課題として挙げておられました。

その他の広報として、フェイスブックによる情報発信を行うとともに、ホームページ更新も担っています。

筑紫野市議会広報委員会 フェイスブックで

情報発信！

委員は、各会派から1名で、不足の場合はドン

今後は、LINE、インスタグラム、ツイッター等を活用した情報発信を検討課題とされています。



佐伯市での研修

調査を終えて

現在の委員会は、「議会だより」の編集と協議を行うもののため、議会の情報の鮮度や発信力等に課題があると認識しています。視察研修の中でも、広報の重要性が示されていますが、改選後は広報委員会として、議会広報全般を担えるような新たな仕組みを作る計画です。そして、目指す開かれた議会に少しでも近づくよう取り組んでまいります。

(高橋 信広)

『八女茶でまちづくり条例』を制定！

提案者

高橋 信広
栗原 吉平
川口 堅志

全ての市民が八女茶ブランドに誇りと自信を持って、八女茶産業再興の一翼を担う施策として、八女茶でまちづくり条例を制定いたしました。

八女茶は恵まれた自然環境、先人たちの卓越した技術と努力により、高級茶として全国的に認知されています。

特に、八女伝統本玉露は、平成27年12月22日に農林水産省の地理的表示保護制度の第1弾に登録され、国内外に八女茶の存在価値を示しています。

また、平成30年の八女市まちづくりアンケートにおいて、「八女市のシボル」と考えられるもの、将来的に発展させたものの回答は、圧倒的に八女茶でした。

一方、八女茶は、農業、製造業、卸業、小売業と多方面を経由する農業産品であり、茶事業並びに関連事業を含めると八女市経済の重要な役割を担っています。

令和2年10月に条例プロジェクトチームを立ち上げ、令和3年2月までに各種茶団体、商工会議所、商工会、市執行部との協議を行い、条例制定の賛同をいただきました。

策定までの過程として、実行委員会並びに運営検討委員会を設置し、両委員会において、条例制定に向けた協議を重ねてまいりました。令和4年10月の1カ月間で条例案に対するパブリックコメントを実施、その意見を反映した条例案としました。

